

書道パフォーマンス 甲子園

一般観覧は中止に…

今年の大会、市民のみなさんをはじめとする一般観覧は、残念ながら取り止めることとしました。

市民のみなさんには、ケーブルテレビでご覧いただけるほか、しこちゅ〜ホールの大ホールで生中継を観覧することができます。

一般観覧は中止

7月25日に予定されている第14回書道パフォーマンス甲子園は、新型コロナウイルス感染症対策として、不特定多数の方の接触を避けるため、市民のみなさんをはじめとする一般観覧を取り止めました。

大会当日は、会場に入ることができませんのでご注意ください。

【観覧中止の対応策】

- ケーブルテレビで生中継
- ケーブルテレビのホームページでインターネット生配信
- しこちゅ〜ホールでパブリックビューイング
- ▼詳細は、書道パフォーマンス甲子園ホームページをご覧ください。

【放送時間】

7月25日(日)
9:00～17:30 予定



高校生が記者

大会に向けて企画員と呼ばれる68名の高校生ボランティアが活動しています。

今回の特集は、その中でも広報班のメンバーが大会の様子を伝える記録カメラマン真木隆司さんなどに取材しました！

次ページからの
特集も
ご覧ください！



“感動”を撮る

カメラを始めたきっかけは、友人の走る姿を撮影したときに、喜んでもらえたことです。そこから自分が感動するものを撮るようになり、第9回大会からボランティアで記録カメラマンを務めています。大会前日の選手交流会では、無邪気な笑顔が絶えなかった選手が、当日は顔つきが変わり一生懸命に演技する姿に心を打たれ、撮影しながら涙を流したこともあります。一度きりしかない選手の写真を撮るうえで、失敗が怖くなる時があります。ですから「無駄に撮れ」という言葉を常に心に留めて撮影するようにしています。

選手の何気ない自然な姿から一生懸命な姿、そして感動的な姿などさまざまな姿を撮ってきました。今まで撮った写真の全てを気に入っています。みなさんにはその全部を見せたいくらいです(笑)。

これからも他の人が

気づかない感動的なドラマを写真で表現していきたいです。そして選手たちのこれまでの努力と意思が伝わる写真を撮りたいと思います。



ボランティア
記録カメラマン
たかし
真木 隆司 さん



【聞き手】

三島高校3年 石川紗羅さん(右)
三島高校3年 石川可歩子さん(左)



Interview



南海放送
執行役員 制作局長 松下 和明 さん

世界に通用する
日本人が誇れる
エンターテインメント

南海放送では、2008年の第1回大会から番組を制作しています。最初の頃は、「これが書道？」という声などがありましたが、今では全国の書道部員が一丸となって目指す夢の舞台となっています。書道パフォーマンスが全国に広がり、以前とは比較できないほど進化を続けていることに感動しています。会場はどこにでもある体育館ですが、大会当日はまさに高校生の夢の舞台に変わります。高校生活を書道パフォーマンスに捧げてきた選手が、筆や文字などに込めた思いを、熱いメッセージを、全身全霊で表現する演技を、多くの人に見てもらいたいと思っています。この大会は、世界に通用するものであり、日本人が誇れるエンターテインメントであると思います。

大会の常連校になると部員が40名を超えるため、高校3年生でも大会に出場できません。みんなが必死で努力しています。しかし、昨年は残念ながら大会が中止となりました。今年の選手は、中止で悔しい思いをした先輩方を見てきたはずです。こうした先輩方の思いを引き継ぐ選手に注目したいです。



【聞き手】
三島高校3年 飛鷹彩日さん(右)
三島高校3年 藤田京子さん(左)

Interview



愛媛新聞社
報道部長 雲出 浩二 さん

地元の人に支えられ
まち発展の起爆剤に

2018年度から3年間、四国中央編集部で勤務し、大会や準備の様子取材しました。書道パフォーマンス甲子園の魅力を一言で言えば、作品に凝縮された高校生のエネルギーです。

縦4m×横6mの紙に大書された文字の迫力、練り上げた言葉、紙面のデザイン力、何よりすごいのはさまざまな演出を交えながら6分間で仕上げるチームワークです。選手が積み重ねてきた努力と情熱が想像できます。新聞の強みは、大きな紙面と解説力。ページを開いた時のインパクトを意識しつつ、選手の思いや作品の内容を丁寧に伝えたいと考えてきました。

特に心に残っているのは第12回大会(2019年)優勝の松本蟻ヶ崎高校(長野県)の作品です。「伝える手段は機械だけか スマホの時代に筆を執れ」との言葉で、思いを伝える手書き文字の素晴らしさを表し、書道への誇りが感じ取れました。今、見ても胸が熱くなります。

大会はまちを発展させる起爆剤になりえる存在です。地元の人が作品を楽しみ、胸を張って市外の人にアピールできる雰囲気は今以上にできればいいなと思います。



【聞き手】
三島高校3年 真鍋璃子さん(右)
三島高校3年 守屋志保さん(左)

Interview



四国中央テレビ
代表取締役 井上 仁 さん

大会の魅力を
そのまま地域へ

書道パフォーマンスは、私が知っている書道とは全く違う新しいものです。文字を書くことに加え、身体表現、綴る言葉、音楽などのそれぞれが重なって書道パフォーマンスという総合芸術が誕生し、書道の魅力は多様になったと感じています。四国中央市は紙のまちであり、書道が盛んなまちです。市民のみなさんにとって、このまちが書道パフォーマンスの聖地であることは、全国に誇れることだと思います。ケーブルテレビとしては、多くの市民の方に、大会の魅力をありのまま伝えていくことが大切だと考えています。そのために、選手一人ひとりの思いを撮りこばさないように、カメラ7台を使って撮影し、選手が盛り込んできた細かなアイデアを余すことなく伝えることを意識しています。しかし、思うようにいかないこともあり、毎回、反省の繰り返しです。

市民のみなさんに対して、魅力ある大会がきちんと伝わるように、放送の品質を更に高め、的確な映像を届けたいと思っています。パフォーマンスの中身が更に伝わるような実況と解説にも、いつかは挑戦してみたいですね。



【聞き手】
三島高校2年 山川紗依さん

伝えたい青春
“ここ”にあり

書道パフォーマンスの聖地は“四国中央市”
全国の書道部員が
“書道パフォーマンス甲子園”を目指します
一般観覧が中止となった今年
大会を伝える側への期待は
いつもに増して大きくなります
伝える側にとっての書道パフォーマンス甲子園とは――



書道パフォーマンス甲子園実行委員会事務局
(文化・スポーツ振興課内) 28-6037

書道パフォーマンス甲子園 検索



書道パフォーマンス甲子園ポスター&写真展

軌跡

日時: 7/1 (木) ~ 7/29 (木) 9:00 ~ 18:00

※日・祝日は除く

場所: 市役所市民交流棟 1階ロビー

内容: これまでの大会ポスターや記録カメラマン
真木隆司さんが撮影した写真を展示します。